

阪神・淡路大震災の記録

旧津名郡北淡町の記録

平成7年1月17日未明、災害のない風光明媚な住みよい町であった我がふるさと「北淡町」が戦後最大という未曾有の大災害を被るとは誰もが想像だにできなかったことであります。兵庫県淡路島の北部を震源地として発生し、最大震度7を記録した直下型大地震は一瞬にして尊い生命・財産を奪う大惨事となりました。

心あたたまる義援金、数々の救援物資など、海上、空路、陸路から多数送っていただきまた自衛隊をはじめ全国各地からいち早く駆けつけて来られたボランティアの皆さん方の献身的なご支援に対し、心から感謝するものであります。

さらに、自ら被災者となるなか救援に当たられた地元町内会、自治消防団、そして広域消防、警察等々、全住民、全機関あげて不眠不休の活動があったことをここに特筆しておくものであります。

北淡町の概要

北淡町は、淡路島の最北端に位置し、東西11.6km、海岸線が18kmにわたる帯状地形の町で、面積は51.07km²あります。標高515mの常隆寺山を主峰とする脊梁山系を背負い、特に北部海岸線は急勾配で山が海に迫り、耕地のほとんどが段々状になった棚田となっています。今回の地震の原因となった野島断層はこの海岸線に沿って約10kmにわたって延びております。

淡路島が現在の姿になったのは、約200万年前の新生代・第2瀬戸内海時代です。北淡の地形は、六甲山地に連続していたものが明石海峡の陥没によって切断され、主として花崗岩の丘陵からなり、沿岸は第3期層の地質となっています。また、北部丘陵地には約2千万年前の新生代第3期中新世に属する珍しい鍾乳洞があり、その生成要因となるカキ石の包含層が広く分布するなど、地殻変動によって隆起陥没が繰り返されていたことを物語っています。

※町制執行 ・昭和30年3月22日 「北淡町（ほくだんちょう）」誕生。

旧仁井村 野島村 富島村 浅野村 育波村 室津村が大同合併。

※役場の位置 ・東経134度55分41秒 北緯34度32分50秒

※人 口 >> (H12.5.1) 10,755人、3716世帯 >> (S30.3.22) 19,580人
>> S30国調 18,128人 65歳以上高齢人口 1,589人 (8.8%)
>> H12国調 10,217人 // 3,069人 (30.0%)

※淡路市 ・平成17年4月1日 旧津名郡6町の内5町が合併「淡路市」誕生。

北淡町 淡路町 東浦町 一宮町 津名町

※人 口 49,366人 17,898世帯 (17年11月)

兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）の概要

兵庫県南部地震は、平成7年(1995年)1月17日(火)午前5時46分(日の出7時06分)の未明に発生。神戸と洲本で烈震の震度6を記録。その後の調査で北淡町を含む淡路島をはじめ、神戸、芦屋、西宮、宝塚の一部区域では、我が国で初めて震度7の「激震」と判定されています。震源地は淡路島北部の北緯34度36分、東経135度03分。震源の深さは14km、マグニチュード7.3。余震とみられる有感地震は平成8年4月5日までの記録として、394回発生しています。

地震に伴う被害の概要

マグニチュード7.3がもたらした直下型地震は、そのエネルギーのほとんどをわずか10秒の間に放出し、横揺れ余震と合わせ約40秒という瞬時に、39名の尊い人命を奪うとともに、9割を超す家屋が倒壊・損壊するなど、町内全域にわたって壊滅的な被害を受けました。倒壊した家屋が生活道路を覆い、救急車両等の通行もままならない状況でありましたが、消防団員をはじめ地域住民一人一人の連携プレーによって生き埋めとなっていた約300人を無事に救出するなど、被害を最小限度に食い止めることができました。

その要因として、地震発生が生活活動を始める前の未明であったこと、水道以外のライフラインがなんとか機能したこと、火災発生件数が1件であったこと、無風状態であったこと、そして幹線道路が通行可能であったことなどの諸要件が重なったことも事実であります。これらが全て逆に作用していた場合、想像を絶する大惨事となっていたことが想定されます。

(兵庫県下災害救助法指定市町数 10市10町)

■兵庫県南部地震被害状況（H15末、消防庁）

	兵庫県ほか全被害	北淡町	対比率
・指定市町面積	1,657.60km ²	51.07km ²	3.08%
・指定市町人口	3,024,774人	11,214人	0.37%
・死亡者数	6,434人	39人	0.61%
・負傷者数	43,792人	870人	1.99%
・行方不明者数	3人	0人	—%
・全壊家屋数	186,175世帯	1,057世帯	0.56%
・半壊家屋数	274,182世帯	1,220世帯	0.44%

★北淡町地区別被害状況（H8.4.1現在・町内会世帯数による）

地区	世帯数	死亡者	負傷者	全壊世帯	半壊世帯	一部損壊	被害世帯
仁井	265	0	3	21 7.9%	72 27.2%	153 57.7%	246 92.8%
野島	382	11	14	143 37.4%	106 27.7%	111 29.1%	360 94.2%
富島	917	26	21	413 45.0%	256 27.9%	136 14.8%	805 87.8%
浅野	570	2	8	104 18.2%	233 40.9%	201 35.3%	538 94.4%
育波	798	0	7	191 23.9%	386 48.4%	174 21.8%	751 94.1%
室津	678	0	6	177 26.1%	170 25.1%	255 37.6%	602 88.8%
合計	3,610	39	59	1,049 29.1%	1,223 33.9%	1,030 28.5%	3,302 91.5%

※倒壊家屋の撤去件数は1,937戸で、全世帯の50.9%を占めています。

阪神・淡路大震災被害概要（H7.1.17 発生・H8.4.1 現在）

※兵庫県南部地震発生		平成7年1月17日（火）	午前5時46分
※北淡町災害対策本部設置		平成7年1月17日（火）	午前6時30分
※北淡町復興対策本部設置		平成7年4月1日（土）	

避難の状況	最大人員	3,650人	人的被害	死者	39名	
	避難場所	19箇所（最大）		負傷者	重症	59名
	避難開始	H7.1.17、午前7時			軽症	811名
避難勧告命令		H7.1.21、11:15PM		崖くずれ		15箇所
避難勧告解除		H7.1.22、7:00PM		文教施設		12箇所
出動の状況	消防団員	10,800人	その他の被害	橋りょう		10箇所
	広域消防職員	214人		道路		580箇所
	警察（応援含）	4,830人		河川		320箇所
	自衛隊隊員	31,700人		漁港・港湾		5箇所
	自衛隊車両	8,627両		農地・農業用施設	農地	600箇所
	ボランティア	8,500人			ため池	250箇所
	派遣医師団	418人			水路	160箇所
	看護婦その他	1,370人			その他	290箇所
臨時診療所患者数		9,913人		農地（600）		10億円
救援物資		3,910件		農業用施設		70億円
義援金		2,468件		公共土木施設		8.1億円
住家の被害	全壊家屋	1,057世帯	被害額	漁港・港湾		76.8億円
	半壊家屋	1,217世帯		漁港共同利用施設		1.5億円
	一部損壊家屋	1,030世帯		崖くずれ等		16.6億円
	撤去申請家屋	2,150件		文教等公共施設		7.4億円
仮設住宅	建設戸数	12団地、600戸	水道施設	上水	9.4億円	
	入居者数	2,038人		簡水	0.9億円	
	うち老人世帯	337世帯				

★平成8年4月報告の被害状況による

避難所の状況

災害対策本部に基づく避難箇所として11箇所を指定していましたが、家屋倒壊による災害が想像を絶し、19箇所に増設。最大避難時には3,650人の住民が避難しました。4月10日、仮設住宅600戸の全戸完成に伴い、避難所への避難はゼロ人となりました。しかし、大雨によって野島断層が走る大石地区の山腹崩壊の危険が生じ、同年5月末まで野島小学校の避難所を継続しました。

★避難者数の推移

月 日	北 淡 町		兵 庫 県	
	箇所数	避難者数	箇所数	避難者数
平成7年1月23日	19	3,650	1,153	316,678
2月22日	10	860	933	199,127
3月 3日	9	674	872	99,913
4月 5日	1	61	699	59,947
4月19日	(野島) 1	(22)	630	49,980
(H8.5.2 現在)	0	0	25	427

応急仮設住宅の建設

震災後、仮設住宅の建設について国・県に対して緊急要望を重ね、町内12箇所に延べ600戸の住宅を建設。生活保護世帯、高齢者または身体障害者、低所得者世帯等を優先するなか、2月20日から入居抽選を開始。これを遡る1月25日に第1期工事に着手し、3月1日に168戸が入居。4月10日までに、600戸すべての入居を完了しました。1戸当たりの延べ面積は29.16㎡で、和室6畳と4.5畳の二間、台所、風呂、便所、押入、玄関などを完備しています。入居期限は原則として2年となっています。

★応急仮設住宅の設置

≫平林団地=22戸 ≫野島団地=34戸 ≫小倉Ⅰ団地=16戸 ≫小倉Ⅱ団地=110戸
 ≫富島Ⅰ団地=34戸 ≫富島Ⅱ団地=22戸 ≫背山Ⅰ団地=70戸 ≫背山Ⅱ団地=78戸
 ≫育波埋立団地=68戸 ≫育波西部団地=84戸 ≫室津埋立団地=56戸
 ≫室津団地=6戸

★平成9年6月10日から仮設住宅の一部撤去が始まり、平成11年5月21日にすべての仮設住宅を撤去しました。

倒壊家屋の撤去

直下型地震は、全世帯の9割を超す3,302世帯の家屋に甚大なる被害をもたらしました。うち全壊家屋等を含め、2,150件に及ぶ解体、撤去申請がありました。特例措置として町が事業主体となって解体、処理を行い、その費用の2分の1は国の補助対象事業となりました。海岸部の密集住宅地域における撤去は自衛隊の緊急支援を依頼し、地元建設業者と協力して3月31日までに992戸を撤去。第2期工事として山間部の撤去を行い、同年6月20日をもってすべて完了しました。（最終撤去件数：1,837件）

自衛隊の支援

災害派遣要請（自衛隊法第83条第1項）に基づき、震災当日の1月17日に第一陣が姫路市の第3高射特科大隊から到着。以来、3月末までの74日間にわたって支援活動を繰り広げていただきました。1月21日からの派遣は香川県善通寺市に本部を置く第2混成団で、北淡、津名、一宮の3町で実施した救援活動は、≫延べ人員 31,788人 ≫ 車両 8,627台 ≫ 障害物を撤去した道路 7,660m ≫ 給食支援 50,718食 ≫ 給水支援 871トン ≫ 入浴支援 4,850人 ≫ 倒壊家屋の撤去 992戸（北淡町のみ）に及びました。3月31日、北淡東中学校において淡路島災害派遣終了式を行い、住民が感謝を込めて見送るなか、450名の隊員が善通寺市へ帰還しました。

ボランティア等の支援

震災発生と同時に全国各地から救援物資、義援金が送られ、個人参加によるボランティアはもちろん医療、専門職、企業、住民団体、宗教団体など、各界各層からの参加があり、そのエネルギーは復旧活動の大きな原動力となりました。ボランティア支援は1日最大215名を数え、そのほとんどが長期参加者でありました。今回のような大災害の場合、被災自治体がボランティア救援の統制を行うことは完全にその能力範囲を超えてしまった現実があります。そのため、自らボランティア事務局を設置し、物資の配分、老人ケアなど、あらゆる分野で活動を繰り広げ、4月28日をもってその活動を終了しました。その後は、淡路島内のボランティア・グループがバトンを引き継いでいます。

全国各地から寄せられた救援物資等は次のとおり。（H11.11現在）

- ≫ 救援物資 = 3,832件 ≫ 義援金 = 2,695件 424,959千円
- ≫ ボランティア = 8,500人（登録された人員）

震災医療とケアについて

早朝5時46分、一瞬の内に住宅が倒壊し、柱やタンスの下敷きになって39名の尊い人命が失われ、重傷者59名、軽症を負った者811名を数える大惨事でありました。消防団員等の懸命の救出によって一命をとりとめた方が多数にのぼり、その迅速な対応と、町診療所をはじめ町内開業医、県立病院など島内医療機関の全面協力体制によって被害を最小限に食い止めることができました。とくに震災当日から日本赤十字社をはじめ全国各地の医療機関から医師、看護婦等の派遣をいただくなか臨時診療所を各所で開設し、その延べ件数は、≫ 医療機関 = 13件 ≫ 医師 = 418名 ≫ 看護婦他医療スタッフ = 1,370名にのぼり、受診患者数は9,913名となっています。外科治療はもちろん、避難

所や被災地で蔓延した流行性感冒の治療等、非常時の健康管理に多大の支援をいただきました。当時、震災ショックにより、お年寄りや乳幼児などの一部に不安感を抱いている人が見受けられました。震災当時、北淡町の65歳以上高齢人口は2,889人で4人に一人が老人を占め、そのうち寝たきり老人が50名、ひとり暮らし老人が369名でありました。仮設住宅600戸入居者のうち337戸が老人所帯となっており、仮設住宅入居期限に対する住宅問題、健康管理、将来計画等々、不安材料が山積しておりました。また、乳幼児の間でも心的苦痛に直面したときに現れる退行現象（赤ちゃんがえり）がみられたなど、老若男女を問わず精神的不安を解消するケア対策の必要性が今なおクローズアップされております。

地下水位の低下などで各地に生活・生産被害出る

北淡山間部に位置する仁井地区（292所帯、915人）では、震災以後、井戸枯れが相次ぎ、井戸水を唯一の生活用水とする200所帯のうち180戸の井戸が枯渇。地下水流に変化が生じたもので、毎日70トンの水をタンク車で運搬して給水するなど、毎日、不便な生活を余儀なくされました。早急に未給水地域解消のための簡易水道事業の建設を推進し、事業費約26億円、3年5か月の歳月をかけ平成10年11月完成しました。

一方、堤体等にひび割れなどの被害を被った溜め池の復旧は順調に進捗しましたが活断層の変動などにより地下水位の低下がみられ、今なお、水田耕作にも支障が生じております。水位の復元までにはかなりの年月が必要といわれていますが、最近の長雨によって徐々にではありますが回復の兆しが見えてきております。なお、町内には ≫地すべり危険箇所＝15箇所 ≫急傾斜地崩壊危険箇所＝10箇所などが指定されています。

災害対策本部の設置

- (1) 名 称 平成7年1月17日 兵庫県南部地震災害対策本部
- (2) 設置日 平成7年1月17日 午前6時30分
- (3) 組 織 ☆本部長（町長） ☆副本部長（助役、収入役、教育長、消防団長）
☆部 長（役場幹部職員） — 役場職員を統括 —
☆庶務係（職員出動配置） ☆情報連絡係
☆消防・災害報告係（消防各分団との連絡、広域消防）
☆出先連絡・被害情報連絡・避難誘導係
☆医療係 ☆救援物資係 ☆水道給水係 ☆技術指導係

(4) 災害対策本部の取り組み

- ・平成7年1月17日、午前5時46分 兵庫県南部地震発生
- ・午前6時 役場職員、徐々に役場に駆けつけ、救助体制に入る
- ・午前6時15分 — 町長、役場に到着、職員に指示
- ・被災住民から援助を求める電話多数、庁舎内パニック状態となる
- ・午前6時30分 — 災害対策本部を設置 組織体系のもと配置に付く
- ・避難場所の設置、死者多数との連絡あり、遺体安置所を設置
- ・毛布、飲み水、食糧、暖房器具等の確保および医療体制を整備（救護班の設置等）
- ・午前8時50分 — 兵庫県知事に対し、自衛隊の派遣を要請

消防組織の概要

北淡町における自治消防団は6分団、33部、565名をもって構成、最近では町外に勤務するものが多く、また青壮年層の減少に伴って火災発生時における団員の確保は容易ではありません。また、昭和50年5月に業務を開始した淡路広域消防北淡出張所との連携によって民生のより一層の安定を促進しています。

一方、自主防災組織の一環として婦人消防隊（野島・浅野）を編成し、防災対策の啓発など後方支援に多大の貢献をしています。平成7年11月1日には広域北淡出張所に救急車1台が配備されました。

(1) 北淡町自治消防団の組織

- ・仁井、野島、富島、浅野、育波、室津の6分団で構成 ・団員数 547名

本部	団長	1名	副分団長	12名
	副団長	2名	部長	33名
	分団長	6名	班長	96名
			団員	397名

基

淡路広域	消防司令	1名
消防北淡	消防司令補	4名
出張所	消防士長	2名
	消防副士長	2名
11名	消防士	2名
☆消防ポンプ車1台 ☆ポンプ付積載車1台 ☆救急車1台		

☆消防ポンプ車 3台

☆ポンプ付積載車 31台

☆消火栓 581基 ☆防火水槽 34

消防活動の状況

- ・地震の発生（午前5時46分）
- ・倒壊家屋から救助を求める住民多数 各団員、独自で救出開始
- ・午前6時16分、唯一の火災発生、消火、焼死者1名
 - ☆水道管破裂、消火栓使用不能（地震時に問題あり）防火水槽で対応
- ・午前8時00分、消防本部より消防分団体制で救出することを司令
 - ☆NTT回線パンク状態、ロコミによる伝達命令が功を奏す
- ・死者39名（ほとんど圧死）、負傷者多数、救出者（約300名）
- ・消防団と住民との密着した連携と信頼関係が犠牲を最小限に食い止める。

☆自治消防が町内会単位で部構成を行っており、地域の実情を周知。そのため、倒壊家屋の下敷きになっている被災者の全てを救出。

☆当時の死者38名は即死状態で、後日、5月に1名が亡くなり、死者総数は39名となる。

☆行方不明者ゼロを当日中に確定。

☆早朝ということで、生活活動を営んでいた家庭が少なかったが、プロパンガス等の消火訓練など、常時啓発により出火世帯がなく、火災発生による類焼という大惨事を避けることができた。

- ・災害対策本部内に消防本部を併設

☆震災後 1 月 17 日から 1 月 24 日まで 24 時間体制。

☆ 1 月 24 日から 1 月 31 日まで消防詰所で待機体制（3 交替制）。

☆ 2 月 1 日から 2 月 15 日まで、各分団 30 名が詰所で待機。

・ 淡路島内消防団から応援協定に基づき、応援隊来る。

巨大地震に対する現行消防体制の限界と問題点

（1）地震予知学の研究

・ 今回の地震は、活断層がもたらした直下型の震度 7 という大地震であり、その破壊力は想像を絶していた。時間帯によっては、その被害の大きさが倍増していたものと想定される。

①地震予知学を徹底し、活断層の調査と直下型のメカニズムを早急に解明すべきである。

②生きた資料として野島活断層を永久保存し、今後の研究に生かす。（震災記念公園として整備、保存。平成 10 年 4 月 2 日にオープン）

（2）防災計画の見直し

・ 災害のない町という安心感があり、地震災害は想定していなかった。

・ 火災、水防対策は万全を期し、一番恐れた火災の発生を 1 件のみにくい止めた。溜め池の決壊等については、いち早く対処し、2 次災害を防いだ。

・ 机上の計画は無防備に等しく、実地訓練の徹底を痛感する。

①団員間同志、さらには住民との連絡体制の徹底。連絡の殆どは口コミで伝えるのが精一杯であった。

②避難場所の周知徹底。住民が避難場所を知らず、右往左往する光景がよく見られた。夜間であれば避難パニックとなっていた。あわせて定期的な避難訓練を実施する必要がある。

③災害は全ての近代設備機器を遮断することを想定していなければならない。電気が停電となれば、電動器具の使用が不能となる。水道設備が断水すれば、消火栓が使用不能となり、消化活動ができなくなる。地震等、大災害に対応する機材の整備を急ぐ。（各分団に資機材一式を整備している）

・ 連絡体系の徹底を期すため、防災行政無線システムの早期設置と、NTT 回線による連絡網の確立、移動無線の設置などが不可欠である。

・ 広域消防、他の自治消防団との応援協定、警察等々、関係諸団体との連携強化を推進する。

（3）自衛隊組織の協力が必要

・ 今回のような巨大災害については、1 自治体、1 自治消防力では限界がある。陸・海・空からの輸送力があり、住民の意識がパニック状態になったとき、地元に対してはどうしても甘えの意識が強くなり、統制の見地からも指揮・命令権の確立している自衛隊の応援が必要である。

(4) 自治消防団の今後の課題

- ・ 生き埋めになった被災者300人を救済できたのは、消防団と住民が常に一体となっていた証である。町内会単位で部の編成を行い、個々の生活を熟知していたため、倒壊家屋のどの場所で生き埋めになっているかを察知できたことが、被害を最小限に食い止める原因となった。一人暮らしの世帯のリストも消防団に手渡しており、一軒一軒確認して回ったことにより、行方不明者ゼロも当日中に確定することができた。ただ今後、プライバシーの問題が喚起されてはいる。

(5) 災害に強いまちづくり

- ・ 災害復興対策本部の設置（平成7年4月1日）
復興対策を円滑に推進するための連絡調整部局とし災害復興対策室を設置。
- ・ 災害復興計画を策定
平成7年6月1日・北淡町震災復興計画策定委員会を設置
- ・ 地域防災計画を策定（平成9年10月に策定）
地震をはじめ予期せぬ大災害に対応する基本は人と人との互いに信頼し、協力しあう地域コミュニティの醸成である。これを基本理念として地震災害対策と風水害対策の2本立てとし、15年ぶりに改定。それぞれ予防、応急対策、復旧項目などを列挙している。

●北淡町震災復興計画（平成7年6月策定）

★計画の目標 安心・安全・ゆとりをキーワードに創造的復興を推進。最も急務となる「生活の再建」、震災を教訓とした「安心・安全のまちづくり」、震災を契機に飛躍すべく「活力あるまちづくり」を柱に推進。

★目標年次 平成17年までの10年間

————— 震災復興計画で進める主要施策 —————

1. 生活の再建に向けて

・ 災害公営住宅の建設	町営住宅	4団地	82戸	H.7~9
	県営住宅	2団地	85戸	H.8
	コミュニティ住宅		57戸	H.8~12
・ 定住促進団地整備事業（分譲宅地）			54戸	H.7~8
・ 住宅供給公社住宅開発（分譲宅地・住宅）			108戸	H.7~10

2. 安心・安全のまちづくり

・ 訪問看護ナースステーションの設置				H.7設置
・ 福祉施設の誘致（民間活力の導入）				H.13
・ 簡易水道施設整備事業（仁井地区）	H.10.7	給水開始		H.8~10
・ 公共下水道整備事業				H.14~33
・ 生活環境施設整備事業（津名郡広域40トン炉2基）				H.7~10

- ・富島震災復興土地区画整理事業（20.9ha） H.8～16
- ・住環境の整備（野島・浅野・育波・室津） H.8～17
- ・地域防災計画の策定（風水害編・地震災害編） H.7～9
- ・防災行政無線システムの設置（H.8. 4開局） H.7

3.活力あるまちづくり

- ・基幹産業の振興
 - 農林水産施設災害復旧 H.6～8
 - 富島漁港の整備（第10次）県事業 H.14～
 - 浅野漁港の整備（埋立ほか） H.6～14
 - 特産品販売センターの整備 震災公園と民活導入
- ・観光の振興
 - 特産品グッズの開発（枇杷ほか） H.8～
- ・文化・学術の振興
 - 野島断層の保存（震災記念公園） H.8～11
 - 淡路景観園芸学校の開設（県事業） H.7～10
- ・明石海峡大橋の開通 （人と自然がとけあう交流のまち） H.10.4.5 開通

■参考資料

[平成7年度予算提案説明から抜粋]

災害のない風光明媚な住みよい町であった我が町北淡町が、平成7年1月17日午前5時46分、わずか45秒の兵庫県南部地震によってすべての価値観が変わってしまいました。そして今後、地震の町として有史以来かつてない歴史的事実として存在し、私たちの心の中にはもちろん、全国さらには地球的規模で人々の脳裏に刻まれることになりました。私たちは今一度、この地震がもたらした事実の重みを再確認しなければなりません。私たちの災害復興の取り組みが子々孫々に至るまで永遠に伝えられるのです。言い換えれば、歴史の真っ只中に私たちが存在しているということでもあります。私たちは、震災で言い知れない多くのものをなくしましたが、反面また多くのことも学びました。人々のいたわり、やさしさ、助けあう心の大切さを、隣人同士また全国各地の方々から、実体験としてこれらを教わりました。

瓦礫と化したふるさとの復興にあたって、人間関係の豊かさを求める想いが心に深く根づいたことに勝る財産はありません。この試練に耐え、町民各位の北淡町を愛する熱意と共生心の醸成を支えに、21世紀に誇り得る輝かしいふるさと創造に渾身の努力を傾注する決意であります。

子々孫々、未来永劫にわたって私たちの熱き町づくりの歴史を伝えようではありませんか。

平成7年3月13日

第297回北淡町議会定例会において
小久保北淡町長が提案説明

[阪神・淡路大震災に際しての支援に感謝する決議]

このたびの兵庫県南部地域を襲った地震は、我が国史上まれにみる直下型の大規模なものであり、多くの尊い命が失われ、甚大な物的被害をもたらした。

今次の被災者救援や災害復旧・復興に際しては、民間ボランティアをはじめ、消防、警察、自衛隊、医療・福祉、行政関係者など全国各地から救援・支援をいただいているところである。また、震災に際し、国内はもとより、世界各国・国際機関等からもいち早くお見舞いが寄せられ、温かい支援の手が差し伸べられた。

町民が震災で失ったものは計り知れないほど大きなものがあるが、今回寄せられた善意は、復興に向けて立ち上がろうとしている被災者はもとより、すべての町民におおなる希望と勇気を与えるものであり我々は、これらの温かい善意を深く心に刻み、あらためて人々の友情地域の連帯、交流の重要性を認識するものである。

ここに北淡町議会は、これらの温かい支援や友情に応え、町民の総力を挙げた被災者の救援活動の促進はもちろんのこと、速やかな復興に努力することを決意するとともに、阪神・淡路大震災に際して寄せられた世界各国、全国各地の人々の支援、善意に対し心からの感謝の意を表するものである。

平成7年3月13日

北 淡 町 議 会

[姉妹都市、北淡町のご友人方に対するお見舞いに関する決議]

市議会は、オハイオ州セントメリーズ市を代表して下記のとおり決議する。

第1章・・・セントメリーズ市は淡路島のご家族方に対し、ここに深甚より同情の意を表します。セントメリーズ市民は、淡路島並びに神戸、大阪地区のご友人方が未だに取り巻かれている苦痛と不安、そして身近な当面の危険に対し深い心配の念と同情を抱いております。

第2章・・・破壊的な地震の結果として、多数の尊い生命が失われたことは私どもに深い悲しみを与えました。そのような大惨事がもたらす衝撃は、いかばかりであるか、私共の地域に置き換えて考えてみても想像を絶するものであります。

第3章・・・セントメリーズ市区域の住民は、淡路島における犠牲者救済のための義援金募集活動を支援し、総力を結集することに決めました。北淡町のご友人方は、私どもの心から片時も離れたことがありません。私共は、皆様方の窮状に思いを馳せ、お祈り申しあげます。

1995年1月23日付決議

リンデラ・アンドリュース
セントメリーズ市議会議長

認 証 : ベティ・ウェーマン
セントメリース市議会事務官

1995年1月23日法律担当官により承認される

クレイグ・E・ノーブル法律担当官

1995年1月23日市長により承認さる

ウイリアム・T・セル セントメリース市長

阪神・淡路大震災の早期復興支援と被災者の生活支援対策に関する意見書

平成7年1月17日未明、災害の少ない平和で風光明媚な淡路島北部を中心に突如として襲った悪夢の阪神・淡路大震災によって、我が北淡町は壊滅的な未曾有の大災害を被ったのである。

平成9年1月には震災2年目を迎え、この間、全国各地の国民をはじめ国・県を中心とするあらゆる関係機関、各種団体からの多大のご支援をささえに、災害を乗り越えようとする地域住民と一体となり、全町あげて安心・安全・ゆとりを基本とした創造的復興に取り組んできたところである。

国土の保全を中心とした災害復旧事業は順調にその進捗をはかることができ、産業基盤や、交通アクセスの整備によって、経済活動も徐々にではあるが回復の兆しをみることができるようになった。

しかし、21世紀の地域づくりをめざして住民あげて培ってきた「豊かで、明るく、住みよい町づくり」施策は、一瞬にして壊滅的打撃を受け、インフラ整備に至っては数年の遅れをとることが必至の情勢となっている。

さらに、住民生活においては、想像だにしなかった地震災害に身内を失い、住む家をも失い、途方にくれるなか再興めざして日夜奮闘しているが、過疎化、高齢化に加え、火災保険は適用されず、たとえ再建できても2重ローンに苦しむなど、生活再建を個人の自助努力だけに負うには余りにも厳しい状況下に置かれている。

また、被災世帯においては、働く場所を奪われた者、身寄りのないひとり暮らし、高齢世帯、わずかな年金生活者等々、国民に保障された健康で文化的な生活を営むことが困難な住民が数多くいるという現実を踏まえ、これが解決こそ経済先進国に課せられた国是であり、国民の負託に応える最優先施策であると確信するものである。

よって、政府におかれては、大震災特例による国家的支援の更なる拡大と、震災前の町づくり施策の文化的水準に到達する行財政支援の確立をはかれるとともに、被災住民が安心して生活できる抜本的な支援策の早期確立をここに強く要請するものである。

以上、地方自治法第99条第2項の規定により、意見書を提出する。

平成8年12月20日
北 淡 町 議 会

兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）の記録

平成7年

- 1月17日 兵庫県南部地震発生 午前5時46分
北淡町災害対策本部を設置（午前6時30分）
災害救助法指定（神戸市、北淡、津名、東浦、淡路、一宮町）
※2月1日現在で10市10町を指定。
自衛隊災害救援（第3高射特科大隊・姫路市、～1月20日）
- 1月18日 南部地震北淡町犠牲者合同葬儀（町民センター）
原健三郎衆議院議員・貝原俊民兵庫県知事・小沢潔国土庁長官視察
避難所に仮設診療所開設（町民センター他15箇所）
町議会議員ヘリコプターで被災状況を視察
気象庁、北淡町役場に地震計と震度計を設置
- 1月19日 道路啓開作業及び道路への倒壊家屋撤去開始 ※余震・震度3
- 1月20日 気象庁、兵庫県南部地震が震度「7」の激震と発表
議会全員協議会を開催。今後の震災対応策を協議。
- 1月21日 自衛隊災害救援（第2混成団・香川県善通寺市、～3月31日）
避難勧告発令（生田地区、葛原池、22日解除） ※余震・震度4
共産党議員調査団来町
- 1月22日 淡路交通バス（西浦線）運行再開、明石・岩屋フェリー運行再開
姉妹都市セントメリース市、震災犠牲者の冥福を祈るミサ、総合援助基金協
会を設立し義援金を募集（5回にわたって送金）
- 1月23日 兵庫県知事調査団来町 ※余震・震度4
避難所への避難ピーク（19箇所、3,650人）
セントメリース市議会が、姉妹都市・北淡町のご友人方に対するお見舞いに
関する決議
- 1月24日 中筋 茂・前北淡町長逝去（26日、葬儀告別式）
学校、保育所全面再開
- 1月25日 仮設住宅建設開始（背山第1団地、～4月4日、総数600戸）
自民党現地視察団来町 ※余震・震度4
町議会3常任委員会が連合で委員会を開催。2月6日、同20日開催。
- 1月27日 衆議院災害対策特別委員会被害状況調査のため来町
災害援護資金貸付を開始
- 1月28日 亀井静香運輸大臣・原健三郎衆議院議員来町
谷津義男農林水産政務次官来町（活断層調査）
- 1月29日 野坂浩賢建設大臣来町
- 1月31日 天皇皇后両陛下被災地行幸啓（町民センター） ※余震・震度3
- 2月2日 ※余震・震度3
- 2月4日 河野洋平副総理兼外務大臣被災現場視察 ※余震・震度3
大河原太一郎農林水産大臣被災現地調査（山・池崩壊、漁港等）

- 2月5日 野中広務自治大臣被災地激励来町（被災地、活断層、対策本部）
梁瀬進建設政務次官被災地調査
- 2月6日 倒壊家屋撤去作業開始（自衛隊、建設業協会、11班編成）
- 2月7日 北淡町都市計画区域指定区域を告示
- 2月8日 久野統一郎国土政務次官来町
溜水義久建設省都市局技術審議官来町
- 2月9日 北淡町都市計画事務所開設（現都市整備事務所）
仁井地区の自衛隊給水支援開始
- 2月10日 小里貞利地震担当特命大臣来町
- 2月13日 北海道奥尻島医療団来町（～18日）
- 2月15日 都市計画審議委員会開催
- 2月16日 富島地区土地区画整理事業説明会
- 2月17日 震災1ヶ月、全住民による犠牲者への黙祷
- 2月18日 土地区画整理事業地元説明会（～20日）
災害弔慰金・災害見舞金申請開始（～24日）
- 2月20日 仮設住宅入居抽選開始（～24日）
- 2月22日 水道、仮復旧により全域通水
救援物資1次配分開始
- 2月26日 被災市街地復興特別措置法施行
- 2月27日 第296回北淡町議会臨時会開催（午後6時開議）
- 3月1日 激甚災害に指定（災害名、阪神・淡路大震災）
特定被災地方公共団体政令市町村に指定〔1県9市7町〕
阪神・淡路大震災に対処するための特別の財政援助及び助成に関する法律
※余震・震度3
- 3月2日
- 3月4日 富島地区土地区画整理事業説明会（～12日）
- 3月6日 仮設住宅入居開始
- 3月10日 第297回北淡町議会定例会（～28日）
- 3月11日 救援物資第2次配分
- 3月13日 北淡町議会が「阪神・淡路大震災に際しての支援に関する決議」を行う
- 3月17日 兵庫県が大震災復興都市計画13地域（北淡町富島地区含む）を指定。
同時に被災市街地復興推進地域に指定
救援物資第3次配分
- 3月19日 自由民主党消防議員団来町
- 3月21日 ガンバレほくだん激励コンサート（陸上自衛隊第2混成団・音楽隊、東西両中学校）
- 3月22日 救援物資第4次配分
- 3月26日 富島地区震災復興協議会が発足（27名）
救援物資第5次配分
- 3月30日 山腹崩壊危険箇所、大石地区に避難警報（野島小学校へ避難）
- 3月31日 自衛隊淡路島災害派遣終了式（北淡東中学校）

	ボランティアおつかれさまこれからもがんばりましょうパーティー（老人福祉センター）
	北淡町災害復興基金条例を制定
	災害派遣職員着任（10名、うち県派遣職員3名）
	（財）阪神・淡路震災復興基金を設立（兵庫県、神戸市）
4月6日	仮設住宅すべて完成（12団地、600戸＝平成11年5月21日撤去）
4月8日	いきいき淡路島フェスティバル実行委員会幹事会（商工会）
4月9日	兵庫県議会議員選挙が臨時特例により延期（6月11日）
4月10日	北淡町都市整備事務所開設
	仮設住宅完成に伴う避難所への避難ゼロ名。野島小は継続中
4月12日	阪神・淡路大震災調査衆議院派遣議員団来町
4月13日	地すべり等、危険箇所現地調査（国、県、消防、警察）
4月17日	共同仮設店舗起工式（富島商店街組合、12店舗）
4月19日	阪神・淡路大震災調査参議院派遣議員団来町
4月22日	救援物資第6次配分
4月29日	断層と地震についての小集会（町民センター、日本地質学会）
5月1日	淡路総合住宅相談所開設（町民センター内）
	震災記録写真特別展「阪神・淡路大震災」（歴史民族資料館）
5月21日	救援物資第7次配分（米ほか）
5月24日	衆議院建設委員会来町
	震災復興ひょうごフェニックス県民フォーラム（一宮町）
5月26日	第298回北淡町議会定例会（～29日）
5月27日	地震防災対策シンポジウム（神戸市・町内2名、自治大臣表彰）
6月1日	北淡町震災復興計画策定委員会を設置（震災復興計画書を策定）
6月9日	地震防災対策特別措置法が成立
6月11日	兵庫県議会議員選挙（4月9日が延期）
6月13日	共同仮設店舗オープン（富島商店街、12店）
6月20日	倒壊家屋の撤去作業が完了（2,150戸）
7月18日	地震防災対策特別措置法施行（6月16日公布）
7月20日	議会300回（第300回北淡町議会臨時会）
7月30日	いきいき淡路島フェスティバル（～31日、鎮魂・感謝・復興）
7月31日	町消防団、防災功労者消防庁長官表彰受賞
9月1日	町消防団・町内会連合会、防災功労内閣総理大臣表彰受賞
9月13日	池端清一国土庁長官（阪神・淡路復興対策担当）来町
9月24日	町議会議員選挙（任期満了、同26日、定数16人）
10月1日	国勢調査（人口10,687人、5年間で6.6%減）
10月6日	議会に阪神・淡路大震災復興対策特別委員会を設置
10月20日	野島活断層に保護フェンス
11月1日	（社）町社会福祉協議会、日本顕彰会・社会貢献者表彰受賞
11月9日	総合防災合同訓練（北淡路3町 ― 北淡町東部総合開発地内）

- 11月26日 第1回野島断層保存検討委員会（教育委員会）
- 12月1日 北淡町訪問看護ステーションスタート（事務所は町民センターに設置）
- 12月25日 特別職と管理職手当の一部カット（職員ベア分復興資金に寄附）

平成8年

- 1月15日 成人の日 ザ イエローモンキー震災チャリティ・コンサート
- 1月17日 震災1年・全住民が一斉に黙祷 ― 防災行政無線試運転
- 1月21日 北淡町犠牲者追悼式典（町民センター）
- 2月18日 ふれあいセンター・オープン（仮設4団地で建設）
- 3月18日 第5次「北淡町振興計画」策定（人と自然がとけあう交流のまち）
- 3月22日 姉妹都市セントメリース市使節団来町（～3月26日）
- 3月24日 北淡町制40周年記念式典（震災より1年遅れで開催）
北海道奥尻町と友好姉妹町提携
- 3月26日 がんばろう育波展を開催（育波公民館、～4月14日）
- 3月29日 仁井診療所改築オープン（三井ホームより寄贈）
- 4月1日 北淡町防災行政無線システム開局
- 5月5日 野島地区「復興祭」を開催（野島小学校）
- 5月30日 震災500日・社民党「阪神・淡路大震災復興調査団」来町
- 8月5日 北淡都市計画事業富島震災復興土地地区画整理事業施行条例を制定（8月12日公布）
- 8月20日 仁井簡易水道事業起工式（平成10年7月から試験給水。同11月完成）
- 9月11日 災害公営住宅・町営育波第鉄筋住宅完成（20戸）
- 9月14日 北淡サンセットタウン（定住促進団地、第1期35区画）分譲開始
- 9月25日 災害公営住宅・町営富島小倉鉄筋住宅が完成（14戸）
- 10月27日 野島断層シンポジウムを開催（町民センター）
- 11月6日 富島震災復興土地地区画整理事業の事業計画決定（11月5日・知事認可）
- 11月10日 第1回北淡町産業文化祭を開催（富島小学校）
- 12月6日 淡路広域ごみ処理施設起工式（日量80トン、野島常盤）
- 12月20日 北淡町議会が阪神・淡路大震災の早期復興支援と被災者の生活支援対策に関する意見書を採択

平成9年

- 1月8日 県営北淡育波鉄筋住宅完成（20戸）
- 1月17日 阪神・淡路大震災犠牲者三回忌追悼（役場）
- 1月18日 県営北淡浅野南鉄筋住宅完成（65戸、1号館30戸、2号館35戸）
- 4月25日 生活再建支援金制度スタート
- 5月1日 ごみ分別収集スタート（容器包装リサイクル法）
- 5月12日 土地地区画整理審議会が発足（委員10名、任期は5年）
- 5月23日 災害公営住宅・町営浅野ウイズ鉄筋住宅完成（24戸）
- 6月10日 応急仮設住宅600戸のうち富島Ⅱ団地（22戸）撤去開始。

7月10日	ほくだん・議会だより創刊号発行
7月16日	北淡町定住報奨金交付に関する条例を制定
7月12日	北淡サンセットタウン（定住促進団地、第2期19区画）分譲開始
8月1日	生活復興相談員制度を設置
9月24日	北淡町少子化対策検討委員会を設置
10月1日	北淡町地域防災計画を策定（15年ぶり改定）
10月5日	全日本プロレス「阪神・淡路チャリティ大会」（北淡東中）
10月13日	北淡町議会が震災復興土地区画整理事業の早期実現を求める決議を採択
10月30日	兵庫県立淡路景観園芸学校起工式（野島常盤）
11月7日	株式会社ほくだん創立総会（北淡町震災記念公園運営第3セクター）
11月29日	北淡町防災教育実践研究大会
12月11日	富島震災復興土地区画整理事業の事業計画変更（12月10日知事認可）
12月25日	富島土地区画整理事業の第1回仮換地指定（H10.1.9 工事着手）

平成10年

1月18日	阪神・淡路大震災北淡町三周年追悼式典（町民センター）
1月28日	災害公営住宅・町営室津宮田鉄筋住宅完成（24戸）
3月21日	明石海峡大橋開通記念ブリッジウォーク
4月1日	大学等通学者交通費助成事業スタート
4月2日	北淡町震災記念公園（フェニックスパーク）オープン
4月5日	明石海峡大橋開通（神戸淡路鳴門自動車道全線開通）
6月5日	被災者自立支援金制度を創設（被災者生活再建支援法の附帯決議）
6月16日	淡路サンセットライン・緑の道しるべ大川公園開園
7月13日	富島コミュニティ住宅完成（37戸）
7月18日	共同店舗「ほくだん夢の里」オープン（震災記念公園）
7月22日	北淡町まちづくり振興基金設置条例を制定
7月31日	野島断層が国の天然記念物に指定（文部省）
9月20日	北淡町長選挙、北淡町議会議員補欠選挙（小久保町長再選）
11月7日	北淡ウイズタウン第1期分譲開始（109区画のうち29区画）
11月17日	仁井簡易水道事業が完成（総事業費23億円）

平成11年

1月1日	予定価格など入札結果等の事後公表を実施（500万円以上）
1月12日	富島コミュニティ住宅（Ⅱ期）建設工事始まる（4階建・20戸）
1月17日	阪神・淡路大震災四周年犠牲者追悼献花・記帳（北淡町役場）
1月17日	皇后陛下御歌碑を除幕（震災記念公園）
3月26日	地域振興券を交付（3,303人）
3月31日	北淡診療所医師住宅新築工事竣工式（育波）
3月31日	北淡町リサイクルセンター竣工式（愛称・エコセンター、斗ノ内）
4月1日	富島震災復興土地区画整理事業を住宅・都市整備公団に業務委託

4月1日	ふるさと夢事業条例を制定（出産奨励金、結婚祝金、転入奨励金等々）
4月1日	兵庫県立淡路景観園芸学校が開校（5月14日オープン、野島常盤）
4月4日	夕陽が丘クリーンセンター竣工式（津名郡広域事務組合、日量80トン）
4月16日	モニュメント鎮魂の碑「べっちゃんないロック」竣工式 メモリアルハウス開館式・慰霊碑除幕式（震災記念公園）
4月27日	被災体験を話す「震災語りべ」がスタート（震災記念公園）
9月23日	町議会議員選挙（任期満了、同26日、定数16人）
11月4日	富島コミュニティ住宅（第Ⅱ期）完成（20戸）
11月28日	仁井ふるさとの道（農道整備事業、4.5km、14年、15億円）開通
12月3日	本土導水開始（淡路広域水道用水供給事業完成）
12月10日	阪神・淡路大震災の総合的な支援体制の継続を求める意見書を採択
12月22日	震災記念公園セミナーハウス完成

平成12年

1月17日	阪神・淡路大震災五周年北淡町追悼式典（セミナーハウス） 北淡国際断層シンポジウムを開催（世界21か国から参加 ～23日）
1月24日	野島が崎公園完成（震災復興事業・漁業集落環境整備事業）
3月1日	ポイ捨てをなくす北淡町美しい島づくり条例を制定・施行
3月15日	北淡町総合福祉センター完成（3月21日からデイサービス業務開始）
3月15日	仁井サンハイツ完成（山間部に初の町営住宅、木造2階建て10戸）
3月18日	淡路花博ジャパンフローラ2000開幕（東浦・淡路町 ～9月17日）
4月19日	姉妹都市提携15周年記念使節団アメリカセントメリーズ市訪問 ～27日
7月21日	震災復興支援派遣職員里帰り事業
10月30日	戸籍電子情報処理業務開始
11月3日	あわじ復興大バザール ～5日
12月2日	斗ノ内里ほ場整備竣工式

平成13年

1月6日	北淡活断層シンポジウム2001 ～8日
1月17日	阪神・淡路大震災六周年犠牲者追悼献花・記帳（震災記念公園）
4月5日	天体観測施設完成（自然休養村センター）
4月26日	天皇皇后両陛下下行幸啓（震災記念公園）
7月17日	地域新エネルギービジョン策定委員会発足
10月25日	自然エネルギーセミナー開催 ～26日
11月25日	地域開発関連整備事業浅野南地区ほ場整備竣工式

平成14年

1月16日	統合中学校建設推進委員会発足
1月17日	阪神・淡路大震災七周年北淡町追悼式典（セミナーハウス） 北淡活断層シンポジウム2002 ～18日

2月19日 統合中学校建設に伴う住民説明会 ～28日
4月4日 風力発電施設竣工式（震災記念公園）
4月8日 富島・明石間の定期航路復活
9月29日 北淡町長に井高孝一氏初当選
10月1日 富島土地区画整理事業内の幹線道路の一部が完成
10月26日 市町合併住民説明会 ～27日
11月18日 北淡路3町合併協議会発足
11月26日 北淡中学校新築工事完全祈願祭

平成15年

1月17日 阪神・淡路大震災八周年犠牲者追悼献花・記帳（震災記念公園）
2月24日 北淡路3町合併協議会廃止
2月24日 津名郡5町合併協議会発足
4月13日 北淡診療所竣工式
5月26日 西部簡易水道事業竣工式
7月6日 育波漁港関連道路竣工式
7月24日 町道平林立道線竣工式
9月21日 町議会議員選挙（任期満了、同26日、定数14人）
10月10日 浅野漁港造成工事竣工式
11月7日 北淡浄化センター起工式
12月5日 津名郡5町合併住民説明会 ～11日

平成16年

1月17日 阪神・淡路大震災九周年犠牲者追悼献花・記帳（震災記念公園）
2月7日 津名郡5町合併協定調印式（津名町しづかホール）